

# ひきじだい

令和4(2022)年8月30日  
葉月・長月(8・9月)号  
大和市立  
引地台小学校  
HIKIJIDAI ELEMENTARY SCHOOL

## 2学期に向けて

校長 箱崎 勝美

夏休みが明け、2学期が始まりました。子どもたちの元気な声が、学校に戻ってきました。久しぶりに会った子どもたち、心も体もぐんと成長し、たくましくなっているように感じました。

今年の夏も、記録的な暑さといわれているように最高気温も平均気温も記録的だったようです。また、台風も頻繁に現れていて、天気が不安定な様子でもありました。2学期は、屋外での行事がたくさんあるので、天候に恵まれるように願っています。



2学期の学校行事については、今のところコロナ感染予防のための行動制限がなく、学校休業もなく教育活動を進めることができそうです。

9月に各学年の授業参観、にじいろ祭り、10月には午前開催の運動会(弁当なし)、11月11日(金)・12日(土)6年の修学旅行を、11月18日(金)・19日(土)5年生の宿泊移動教室(キャンプ)を実施する予定です。しかし、市内の感染拡大がまだ収束した状況ではないので、緊急事態宣言、まん延防止措置などが出された場合は中止または、延期など予定を変更することもありますのでご了承ください。

さて、2学期の始業式は、『なんで? どうして?』という疑問を大事にして、調べたり、人に聞いたりしてほしい。』という話をしました。3歳から6歳ぐらいまでの「なんで?」「どうして?」と質問をよくする時期のことを「質問期・なぜなぜ期」というのですが、「どうして、あの人、帽子かぶっているの?」「なんで、りんごは赤いの?」など説明が難しい質問に、最初は丁寧に答えていても、だんだん面倒になってきて「あとでね。」「自分で考えなさい。」などと答えた経験はないでしょうか。

幼児期の質問は、自分の身の周りの世界に関心が増えてきたことに加え、質問をすることで、人との関係を作り上げていく意味があります。大人が丁寧に答えてあげることによって、心の安定が図れると同時にいろいろなことに対する好奇心や関心を持ち続けることができます。

小学生以降になると質問をすることが少なくなりますが、学校の授業や生活の中で疑問を持つことは、とても大事になります。その疑問を他の人と共有したり、自分で答えを探したり、まとめたり、一つの疑問から探究心が深まっていきます。

38年以上続いているラジオ番組「夏休み子ども科学電話相談」を私も楽しく聞いているのですが、「難しい質問だな。」と思うのがあります。

たとえば、「どうして、鳴く昆虫と鳴かない昆虫がいるの?」「チューリップには目や口がないのに、どうやっていきているの?」「世界で一番多い花の色は何色なの?」など、答える専門家の方も子どもの年齢に合わせて、話すのがとても難しそうですが、丁寧に説明している姿勢に感心します。ぜひ、子どもたちのふとした疑問を一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか?

スポーツの秋、読書の秋・・・何をやるのにも適した季節が始まります。人との関わりを深め、充実した2学期になるよう学校も努めてまいります。2学期も、どうぞ、よろしく願いいたします。



### スマートフォンからの欠席連絡の受付について

9月1日(木)より、Googleフォームによる欠席連絡ができるようになる予定です。詳しくは、8月30日(火)に全学年にPSメールを送付いたしますので、ご利用の際は、ご覧ください。